

特集
九州経済圏
の挑戦

企業競争力を強化し、顧客・社会・社員に豊かさを還元
新しい物流を創出・提供し
顧客や社会の満足と充足を目指す
ジェネック

北部九州を拠点に港湾運送や内航海運などを手がける（株）ジェネック（本社：北九州市門司区、社長：牛山啓二氏）は、2016年4月より中期経営計画「GENEQ NEW STAGE 2020」（5力年）をスタートさせ、企業競争力を強化し、顧客と社員、そして社会の幸福を追求する考えだ。



牛山啓二社長

「単にモノを運ぶだけではなく、自ら積極的に変革し、現地情報や文化なども含めた新しい物流を創出・提供し、お客様に当社を選んでいただけるように競争力を強化していきます」と牛山社長は、新たな中期経営計画の狙いについて語った。

職場環境の整備による安全文化の構築や、見える化・5Sによるカイゼン文化の構築、人材育成を徹底し、日々の業務で習慣化することにより強い現場力を持つ企業風土を醸成する。そして、強い現場力をエンジンとすることで、①強い会社体質、②差別化、③時代変化への対応という3つの柱を構築し、企業競争力を強化していく方針である。

物流技術の開発

差別化の一環として、同社は海上コンテナ内の高温・結露を防止し、物流コストを抑制できる高性能断熱シート「ジェネックシールド®」で特許を取得した。「コンテナの内側に10分足らずで装着できる簡便さも特徴のひとつで、温度変化や多湿を嫌う商材の輸送には強みを発揮します」（牛山社長）。

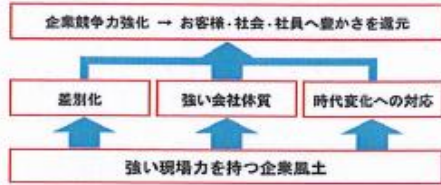
また、海外アーティファクトの舞台装置などのイベント関連や高度な輸送技術が必要とする設備輸送なども多く手がけている。そして力を入れているのが今伸びている北九州港からアフリカやニュージランド向けの中古車輸出事業だ。フル稼働ならた約600台のモータープールに加え、新たに500台超のプールを今年1月に開業するなど、急増するニーズに 대응している。また、売上の半分近くを占める海運事業ではセメント専用船など19隻保有し、取引先も安定している。

「物流を取り巻く経済環境は変化のスピードが速く、企業間競争も激化していますが、お客様や

お客様と社員から愛されるために、中期経営計画を策定し実施してゆく「お客様とともに、社員とともに」

お客様は大切なビジネスパートナー、社員は大切な財産

中期経営計画「GENEQ NEW STAGE 2020」（2016-2020年度）



会社が発展する好循環サイクルへ

社会ニーズを敏感かつ的確に感じ取りながら、しっかりと応え、お客様と社員から愛され続ける企業を目指していきます」と語る牛山社長の視界は良好だ。



内航船